

病虫害発生予察特殊報第 2 号

令和元年 9 月 6 日
三重県病虫害防除所

1 病虫害名 : ツマジロクサヨトウ(チョウ目、ヤガ科)、*Spodoptera frugiperda*

2 発生確認作物 : ソルガム

3 発生確認の経過

令和元年 9 月 3 日、鈴鹿市の圃場において、緑肥用のソルガムからツマジロクサヨトウの疑義幼虫による食害が確認され、被害株から幼虫を採集し農林水産省名古屋植物防疫所に同定依頼をしたところ、令和元年 9 月 4 日に本県未発生のツマジロクサヨトウと判明しました。

国内では、令和元年 7 月 3 日に鹿児島県の飼料用トウモロコシで初めて確認され、その後、熊本県、宮崎県、長崎県、沖縄県、大分県、佐賀県、高知県、茨城県、福岡県、岡山県、千葉県、山口県、愛媛県、福島県の 15 県で発生が確認されています。

これまでのところ、国内では飼料用トウモロコシでの発生が主ですが、スイートコーンやソルガムでも確認されています。

4 本種の特徴

(1) 形態

成虫は開張約 37mm、雌雄で外観が大きく異なり、雄のみ前翅中央部に黄色い斜めの斑紋を持ちます(図 1)。終齢幼虫は体長約 40mm で、頭部の逆 Y 字が淡色で(図 2~3)、尾部の刺毛基盤(黒色斑点)が隆起している(図 4)のが特徴です。卵は寄主植物に塊状に産み付けられ、雌の体毛で覆われます。

(2) 生態

本種は、暖地に適応した種(南北アメリカ大陸の熱帯~亜熱帯原産)であり、熱帯では年 4~6 世代発生します。南北アメリカでは毎年夏季に成虫が移動・分散しますが、暖地を除く地域では越冬することはできないとされています。

5 被害

幼虫が植物の茎、葉、花並びに果実を加害します(図 5)。若齢幼虫は葉を裏側から集団で加害し、成長すると加害しながら分散します。摂食量が多く、食害部には多量の糞が散在します。

6 防除対策及び注意事項

- (1) 多発すると被害が拡大する恐れがあることから、圃場をよく見回り、幼虫の早期発見に努めてください。
- (2) 県は、発生圃場においては、植物防疫法第 29 条第 1 項に基づく措置を行うこととし、国との協議により選定した薬剤(表 1~3)の散布を指導します。薬剤散布が困難な場合は、早期に刈取りするとともに、幼虫の分散を防ぐため、圃場への残渣のすきこみを行ってください。
- (3) 農薬の使用にあたっては、散布は無風又は風が弱い時に行うなど、近隣に影響が少ない天候や時間帯を選び、風向き、防除器具のノズルの向きにも十分注意するとともに、隣接圃場の農作物の栽培者に対して、散布予定農薬の種類や散布時期等を事前に連絡するなど、農薬の飛散(ドリフト)に留意してください。



図 1 ツマジロクサヨトウ雄成虫(左)と雌成虫(右)農林水産省植物防疫所 HP より



図 2 幼虫



図 3 幼虫の頭部



図 4 幼虫の尾部



図 5 ソルガムの被害

表1 ソルガム（飼料用）に使用できる農薬一覧

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
アセタミプリド水溶剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	6000倍	3回以内
アセフェート水和剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内

表2 未成熟トウモロコシに使用できる農薬一覧

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
B T 水和剤 (農薬登録番号19616、19618、19899、 21694、21695、23884)	散布	発生初期 ただし、収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	—
B T 水和剤 (農薬登録番号19885、20653、21944)	散布	発生初期 ただし、収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	—
B T 水和剤 (農薬登録番号14459)	散布	発生初期 ただし、収穫前日まで	60～150L/10a	1000倍	—
ME P 乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
N A C 粒剤	散布	雄穂抽出期～雌穂抽出期 ただし収穫21日前まで		4～6kg/10a	2回以内
P A P 乳剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
エトフェンブロックス乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10 a	1000倍	4回以内
エトフェンブロックス粉剤	散布	収穫7日前まで		4kg/10a	4回以内
エマメクチン安息香酸塩乳剤	散布	収穫3日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	2回以内
カルタップ水溶剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	700倍	2回以内
カルタップ水溶剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
カルタップ粒剤	株の上から均 一に散粒する	収穫7日前まで		6kg/10a	2回以内
クロマフェノジド水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
クロラントラニリプロール水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
クロルフェナピル水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内
シベルメトリン水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	3000倍	3回以内
シベルメトリン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内
シベルメトリン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	3回以内
ピリダリル水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
フィプロニル水和剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内
フェンバレレート・ME P 水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	4回以内
フルフェノクスロン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	2000～4000倍	2回以内
フルフェノクスロン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	4000倍	2回以内
フルベンジアミド水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000～4000倍	2回以内

ベルメトリン乳剤	散布	収穫 14 日前まで	100～300L/10a	2000 倍	4 回以内
メタフルミゾン水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000～2000 倍	3 回以内
レピメクチン乳剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000 倍	3 回以内

表 3 飼料用トウモロコシに使用できる農薬一覧

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
B T 水和剤（農薬登録番号 14459、21694、21695）	散布	発生初期 ただし収穫前日まで	100～300L/10a	1000 倍	—
B T 水和剤（農薬登録番号 19885、20653、21944）	散布	発生初期 ただし、収穫前日まで	100～300L/10a	2000 倍	
カルタップ水溶剤	散布	収穫 21 日前まで	100～300L/10a	1000 倍	2 回以内
アセタミプリド水溶剤	散布	収穫 90 日前まで	100～300L/10a	6000 倍	3 回以内
ME P 乳剤	散布	収穫 30 日前まで	100～300L/10a	2000 倍	2 回以内

※上記の農薬はツマジロクサヨトウに対して登録はありませんが、植物防疫法第 29 条第 1 項の規定による防除を行うために使用する農薬として、使用が可能です。

※上記使用方法、使用時期、散布液量、希釈倍数使用量、使用回数を守ることで、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

※上記の作物以外で使用可能な農薬については、下記の農林水産省 HP を参照してください。

http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html

7 問い合わせ先

三重県病害虫防除所

電話番号：0598－42－6365

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。